

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

ころばぬ先の税

郡山市立行健中学校

1年 吉田 悠人

僕は、よく、母と買い物に行きます。

「消費税が、5パーセントから8パーセントになったんだよ。全く、物が高くなったね…。」

と、お財布からお金を出す母は困った表情をします。今晚から僕の夕食のカツ丼のどんカツが3切れから2切れに減ってしまう…。僕にとってそのことは大問題です。全く、迷惑な税だなあと僕は思いました。兄に話を聞くと、昔は消費税はなかった。自分が生まれた平成元年は、3パーセントだったと教えてくれました。

僕は、税のことをもっと知りたくて調べてみました。パソコンで税の動画を観ました。そしたらそれは、小学校の時に、総合的な学習の時間に観た動画でした。その時は、消費税の大切さを一時的に感じました。今回は2回目だったので観ていくうちにもっと本気で税のことを勉強できたので税に対する関心がより深まりました。そのため、僕の「迷惑税」がとても大切な「役立税」に変わりました。

次に税の使い道について調べてみました。すると僕達に直接関するものが多くありました。その一つは、教育費です。小学校の入学の時から、中学校の卒業までにかかる費用が実は、760万円程だそうです（一人当たり）。この全てが、税によって賄われています。教科書が無料なことも一例です。その他にも、通学路の整備。橋の補強工事なども、税が使われています。県内では、震災以降、18歳以下の子供の医療費も無料になっています。また、消防、警察、ゴミ処理等は、税がうまく集められ使われることに

よって、安全、安心な暮らしができます。そしてそこで働く人、利用する人のために税が役立てられています。

では、この税は、いったい誰が払っているのでしょうか。法人税や所得税は、会社を経営している人や、そこに勤務している人が払います。この前、働いているぼくの二人の兄が給与明細を見て、

「税金たっぷり取られて給料がこれだけかよ。」

とぐちをこぼしていました。また、自営業をしている僕の家では、年に一回、確定申告をして、税金を支払っています。そして、おばあちゃんも年金を受け取った中から税金を払っているし、なにより僕自身も買い物をしながら消費税を払っていました。このように、お金を使う人全てが税を支払っています。

日本国憲法では、三大義務の一つとして、納税の義務があります。しかし少子高齢化が進み、税収入が激減しています。僕がおじいちゃんになった頃、スウェーデンの人のように豊かな夢のある生活を送るためには、僕を含め一人ひとりが税に関心を持ち、税をきちんと納めることが重要で助け合いの気持ちを持つことも大切です。最後に学校ではもっと税について教えてほしいと思いました。みんなの税が「ころばぬ先の税」になるように。